情報工学部創設30周年を迎えて

情報工学研究院長 (学府長・学部長) 梶原 誠司



■情報工学部30周年記念式典

ご紹介いたします。 以下では、 学から尾家祐二学長も出席しました。 事、片峯誠飯塚市長をお迎えし、本 木茂雄視学官、 開催しました。 おいて、学部創設30周年記念式典を 平成29年3月27日、 文部科学省高等教育局から土生 式典で述べました式辞を 大曲昭恵福岡県副知 式典では、 情報工学部に 来賓とし

|情報工学部30周年の歩み

の方々のご出席を賜わり、 本日は文部科学省高等教育局、 飯塚市をはじめ、 多数の来賓 学部創設 福

> うため、1986年10月に全国で初 挙行いたしますことは、学部長とし れました。 めての「情報工学部」として設置さ 野への応用について教育・研究を行 技術の基礎およびその様々な学問分 しまして、厚くお礼申しあげます。 ざいますが、情報工学部を代表いた であります。 て、この上もない喜びとするところ 30周年記念式典をこのように盛大に 九州工業大学情報工学部は、 高いところからではご 情報

御システム工学科」と「機械システ 受入を開始し、翌1988年に「制 が学生の受入をはじめました。 年には「生物化学システム工学科」 ム工学科」が、更に1年後の1989 科」と「電子情報工学科」で学生の 1987年4月に「知能情報工学

りました。

り、教育研究環境の整備が進んで参 るラーニング・アゴラ棟の開設によ

科」、「生命情報工学科」と名称変更 ム創成情報工学科」、「機械情報工学 1988年以降にスタートした三 2004年に「システ 参りました。

つの学科は、

術の研究開発、そして情報化社会の 行ってきました。 発展を担う人材の育成を継続して える学生を受け入れ、新しい情報技 しましたが、五学科で毎年40名を超

や講義棟のみならず、アクティブ 業生を輩出し、卒業生は、 や多目的ホールとしての機能を有す ティブ学習棟「MILAiS(ミライズ)」 ラーニングを実践するインタラク しましたが、現在は、三つの研究棟 う建物も十分にない状況でスタート 上場を果たしている方もいます。 ベンチャー企業を設立し、 も高く評価されています。 これまでに1万1千人を超える卒 学部創設当初は、教育・研究を行 中には、 産業界で 東証一部

し、通学・通勤の利便性も向上して 中心部とを結ぶスクールバスも運行 た場所に立地するキャンパスと市内 また、飯塚市中心部からやや離 n

営に携わってこられた教職員、 方々、これまで学部の教育や管理運 これらは、 本日ご列 席の来賓 更に 0

> じます。 の皆様のご苦労・ご配慮の賜物と存 は本学をご支援いただいている地

本学部の教育に目を移しますと、

よる認定を受けています。 て JABEE と呼ばれます) JABEE に れも日本技術者教育認定機構 プログラムは、2006年以来いず 本学部の五学科が提供している教育 (略 し

されます。 要求水準を満たしているかどうかを ムは国際水準を満たしたものと見な JABEE に認定された教育プログラ 評価し審査・認定する団体であり、 が提供する教育プログラムが社会の JABEE とは、工学分野で大学等

る証でもあります。 続的な改善を伴いながら実践してい が世界に通用する確かな教育を、 めてであり、このことは本学部全体 すが、学部を構成するすべての学科 を受けている学科等は数多くありま が認定されたのは本学部が日本で初 全国の大学・高専で JABEE 認定

置され、本学の強みとなる特徴的な つの重点プロジェクトセンター パスの教員が中心となって学内に四 研究に関しましては、 飯塚キャン が設

研究を推進しています。

とが求められています。 活かしながら強みをより強化するこ の決定、 ニーズに柔軟に対応できる体制の構 に様々な課題を生じさせています。 大学の機能強化の要請等は、 展と社会への浸透、18歳人口の減少 例えば、産業構造の変化や社会 その一方で、情報技術の急速な発 学生の適性を見極めた専門分野 本学部の持っている特色を 本学部

普及し始めたころで、 あり、 ピュータを作ることが求められてい を使いこなすことや高性能なコン コンピュータが世の中の一般社会に 30年前の学部設立当時は、 組を計画しているところであります。 本学部のシステムでは対応に限界が これらの課題に対しては、 情報工学を基盤とする様々な技術 世の中を大きく変えてきました。 平成30年度からの学部全面改 コンピュータ ちょうど 現在の

ンターネットの急速な普及により、 多く使われるようになり、また、イ 能は飛躍的に向上し、 その後、 自動車など身の回りの製品にも コンピュータの性能・機 家電、 携帯電

> しています。 はじめ、社会に大きな変革をもたら 速くなり、世の中のグローバル化を 情報のやりとりのスピードが格段に

新が話題になっています。 の生活や社会を大きく変える技術革 ロボット等、 人工知能、 は益々高まっています。最近では、 ための高度な情報処理技術の重要性 いる現在、それを処理し、 大量の情報が時々刻々生み出されて 30年前とは比較にならないくら IoT、ビッグデータ、 情報技術により私たち 活用する

の余地はありません。 広く普及し進化していくことに疑い これからも情報技術は進化を続け

くと予想されます。 すべき役割は、 その中で、本学部が世の中に果た 本学部は、グローバルな視点を 更に大きくなって

役に立ちたいと考えています。 また、飯塚の地に設立した大学と 地域の情報教育の充実にもお 教職員および学生

そのために、

て参ります。

ロントランナーとして今後も邁進し

情報技術の発展を牽引するフ

持って実践的な教育・研究を行うこ



創設30周年記念式典の様子

惜しむことなく努力を続けて参りた いと思っています。 同 これから後も、これまで以上に

賓の皆さま方をはじめ、 します。 のご支援に対する感謝を申し上げる ほどをお願い申し上げ、式辞といた とともに、今後のご協力、ご指導の いただきました皆様方へ、これまで 終わりにあたり、 本日ご列席の来 本日ご臨席

■高校生・高校教員向イベント

学部創設30周年記念式典と並行し

ウム」にも参加しました。 改組説明会と模擬学習体験のイベン お、このイベントの参加者の多くは 学工学部と情報工学部の学部改組に り、平成30年度に予定されている本 工学部長と平田副情報工学部長によ 擬授業が行われました。また、 授による、グループ学習形式での模 学習体験では、 くの参加者を得ることができ、模擬 は、高校生76名、 トを実施しました。このイベントに 高校生および高校教員向けに、 て、ラーニング・アゴラ棟におい 開催された「公開シンポジ 説明が行われました。 安永教授と小田部教 高校教員32名の多



高校生・高校教員向けイベントの様子

公開シンボジウム「情報学教育の展望」

■公開シンポジウム

文部科学省研究振興局榎本剛

と称した私案が示されました。その の在り方について「情報学2020 が紹介された他、 会でまとめられた情報学の参照基準 そこでは日本学術会議の情報学委員 う題目で基調講演が行われました。 授により 第三部会委員、 ポジウムでは、 シンポジウムを開催しました。 会議情報学委員会との共催により 『情報学教育の展望』と題した公開 記念式典に引き続いて、 『情報学を定義する』とい 東京大学萩谷昌己教 これからの情報学 日本学術会議 日 本学術

萩谷昌己教授による講演の様子

「情報学教育の展望」 公開シンボジウム

で本学の経営協議会

パネルディスカッションの様子

事官 り組みに基づき『ICTを切り開 大学や本学での新たな学部教育の取 る文部科学省の取り組みや、 ンを実施しました。 して参加したパネルディスカッショ 下條真司教授と梶原がパネリストと 院情報科学研究科村瀬洋副研究科長 大阪大学サイバーメディアセンター (情報担当)、名古屋大学大学 人材育成に関 名古屋 わ

> 通じて、 要性が再認識されました。 わされました。 IT人材育成の必要性 このシンポジウムを

うちに終えることができました。 から約5回名の参加者があり、 式典とシンポジウムには、 学内外 盛況

祝賀会

長・理事の他、地域の関係者や学内外 デントホテル」に移して、 祝賀会は、 場所を「のがみプレジ 本学の学

九州経済連合会会長 事務長の司会により た。武谷情報工学部 参加して行われまし の大学関係者が多数

だいた後、 する激励のお言葉を 含めたご祝辞をい 泰様から、 構成員でもある麻牛 高原正雄 本学に対

人材育成』について活発な議論 が交 れており、 また、学生サークル

式典から祝賀会に至る一 迎えた情報工学部の再出発を記 た祝賀会となりました。 最後になりますが、 この度の 連の 行事に、 記 目

明専会から多大なご支援とご協力を ただきました。 お礼申し上げます。 紙面をお借り

0周年記念祝賀会 創設3 学情報工学部

記念祝賀会での集合写真 右から、吉田理事、尾家学長、村瀬教授(名古屋大学)、 榎本参事官(文部科学省)、萩谷教授(東京大学)、 下條教授(大阪大学)、梶原情報工学部長、鶴田理事、延山理事

スが披露されるなど、 坑節CDR21』によるパフォー 旧交を温めることができました。 昔話に花を咲かせること 30 年 の 『田川創作炭 節 マン

された教員も参加さ

会が始まりました。

祝賀会には、

退職

杯のご発声で、

明専会会長による乾